

医療法人 医仁会武田総合病院

西日本初となる最新MRI装置を導入しています

医仁会武田総合病院に最初にMRIが導入されてから30年経ちます。今では、MRIは臨床医学に欠かせない機器のひとつとなっています。日本で3T-MRIは2003年に認可され臨床使用が開始されました。今回、当院でも遅ればせながら待望の3T-MRIを導入し、2015年2月から稼動を始めました。



今までの1.5TのMRI装置2台のうち老朽化した1台を3Tの最新装置「Siemens Magnetom Skyra」に更新しました。このMRI装置の最新バージョンであるE11は西日本初リリース（2015年2月現在）です。

■3T-MRIの特徴■

1) 高分解能

静磁場強度が上がると画像の信号雑音比（S/N比）が上がり、ノイズの少ないきれいな画像を得ることができます。1.5Tが3Tになると、S/N比は約2倍になりますので、従来あまりよく見えなかった細かいところや、手、足など小さな部分もきれいな画像が得られるようになります。



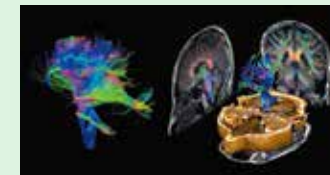
2) 血管の描出（MRA）

MRAとはMRI装置を使った血管の撮像のことです。1.5Tでも日常的に行われている撮像法ですが、3T-MRI装置ではSN比の向上や、T1値という画像を構成する要素が延長する効果により、さらに画質が向上します。

■その他の特徴■

1) MRI検査は撮像に時間が掛かるため、途中で動くと画像が乱れます。これを補正し動きの影響を抑えた撮像が可能です。

2) 脳の神経線維の走行を画像化することができます。この手法により人体の運動をつかさどる錐体路の描出ができ、脳腫瘍の手術などに有用です。



3) 血流を画像化する検査（MR perfusion）も脳全体を細かく撮像できます。

4) 体幹全体の拡散強調画像を撮像しPET検査の様な画像が得られます。

（画像提供：シーメンス・ジャパンKK）

医療法人 財団 康生会 武田病院

院長就任のごあいさつ

本年4月1日付で、院長を拝命いたしました。武田グループの理念である「思いやりの心—信頼の医療」を実践してまいります。患者さんに信頼され、職員が信頼の絆で結ばれ、そして地域から信頼を得られる病院であることを目指し、患者さんに最適な、高品質の医療を安全に提供できる体制を充実していきたいと考えています。

超高齢社会を目前に、医療・介護の一体改革を目指した地域医療構想の策定作業がいよいよ今年度から本格化します。武田病院では、これまでから循環器疾患や脳卒中をはじめとする多くのセンター化機能に取り組み、救急医療、高度急性期医療の充実を図ってきました。今後、高齢化が一挙に進む2025年、さらに高齢化がピークに達し、京都乙訓二次医療圏においても人口減少が本格化するとされる2040年を迎えます。このような社会環境の変化に対応し、地域の中で、武田病院の果たす役割と提供する医療機能を明確にした「武田病院医療ビジョン」を作ることが求められています。

地域の医療、介護、福祉などの諸機関とこれまで以上に連



内藤 和世（ないとう かずよ）
康生会武田病院 病院長

1974年 京都府立医科大学卒業
1980年 京都府立医科大学大学院修了
（外科学専攻）医学博士
1985年 米国テキサス大学ヒューストン校留学
1994年 京都府立医科大学助教授
2004年 京都府立与謝の海病院院長
2008年 京都府立医科大学特任教授
2010年 京都市立病院院長
2011年 地方独立行政法人京都市立病院
機構理事長
2015年 現職

携を深め、また患者さんはじめ地域の皆さんからのご意見をいただく中で、武田病院の将来像を描きたいと考えています。「Bridge The Gaps（ブリッジ・ザ・ギャップス：橋をかけよう）」の基本方針を実現し、地域の皆さんとの間に信頼のかけ橋をつくりあげる努力を重ねてまいります。



医療法人 財団 医道会 十条武田リハビリテーション病院

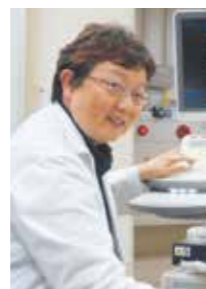
痛風外来を始めます

突如働き盛りの男性を襲う痛風発作と呼ばれる関節の激痛。初期の対応を誤ると痛風発作の炎症は2、3ヶ月も遷延して、責任ある仕事を中断せざるを得なくなり、個人的にも社会的にも大きな損失となります。治療しているはずなのに発作を繰り返す方もいませんか？また、痛風発作を起こす原因である高尿酸血症が継続する事は尿路結石・痛風腎など腎機能障害のリスク、最近では高血圧や心血管イベントなど血管内皮障害のリスクでもありとされてきています。

これら痛風発作や背景にある高尿酸血症の治療や管理に関しては日本痛風尿酸代謝学会より「高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン」が出ていますが、いまだ一般の先生方にまで普及していないのが現状です。その場しのぎの発作治療ではなく、無理なく「痛風発作を起こらなくすること」が可能であることや安全に尿酸を下げていくことが可能である事は知られておりません。発作を頻繁に繰り返す方、発作が重積する方、内臓障害のリスクもある尿酸値コントロールがうまくいかない方など、ご紹介ください。



痛風外来
(第2・第4水曜夜診：新患・予約)
*リウマチ外来(火曜日AM, 水曜PM, 金曜AM)でも痛風診療します。



益田 郁子(ますだ いくこ)
リウマチ科 部長
・日本痛風尿酸代謝学会 認定痛風医
・日本リウマチ学会 専門医・指導医
・日本整形外科学会 専門医

医療法人 財団 康生会 北山武田病院

市民公開講座について

北山武田病院で推進する、「生活習慣病予防～歯科口腔外科～美容のトータルケア」に関する知識を広げいただくために公開講座を実施しています。毎回、当院の医師が各々の専門の診療分野について、一般の方でも判りやすいように工夫をして1時間程度のお話にまとめています。今後も定期的な開催を予定しておりますのでお気軽にご参加ください。(参加費無料・予約不要です)



【過去の講義】			
第1回	「8020運動と全身のかかわり」 ～80歳まで20本の歯を残しましょう～	1月24日	講師 歯科口腔外科 坂下部長
第2回	「血管を若く保つために」 ～めざそう!血管のアンチエイジング～	3月7日	講師 中江副院長
第3回	「胃の老化」 ～ヒロリ菌と胃がん～	5月23日	講師 若月院長

宇治武田病院

2015年1月より、肝臓内科部長として着任しました

消化器内科から、肝臓部門を分離・独立させる形となりました。ただ、消化器内科とは非常に相関する分野ですので、消化器内科の先生方や外科の先生方とうまく連携を取りながら診療していきたいと考えています。私の診療基本姿勢は、患者さんの健康問題に関して、医者任せにするのではなく、ご自分で方針を決定していけるようサポートさせて戴く(自己決定権の尊重)ということです。そのために必要な専門的知識と情報を充分ご説明します。

また、縁あって20年来京都肝炎友の会という患者会でお世話させて頂いており、ウイルス肝炎独特の様々な差別に

対するサポートもして参りましたので、必要であれば外来診療とは別に時間を取って相談に乗らせて頂きます。



小畑 達郎(こばた たつろう)
肝臓内科 部長
・1983年 京都大学医学部卒業
・日本内科学会認定医
・日本消化器病学会専門医、指導医
・日本肝臓学会専門医
・日本超音波医学会超音波専門医

肝臓内科の概要紹介

肝臓病の診療は大きく変わりつつあります。大きな柱であり続けたのは、B型、C型の慢性肝炎—肝硬変—肝癌の一連の流れですが、C型肝炎についてはここ数年以内に、「ほとんど治る」時代に到達しつつあります。肝硬変になっても、腹水や黄疸、意識障害(肝性脳症)がない「代償性肝硬変」の方は、内服薬だけでC型肝炎ウイルスを消すことができる可能性があります。切れ味の鋭い直接的抗ウイルス薬に関しては、薬剤耐性を十分考慮に入れて診療方針を立てていきます。

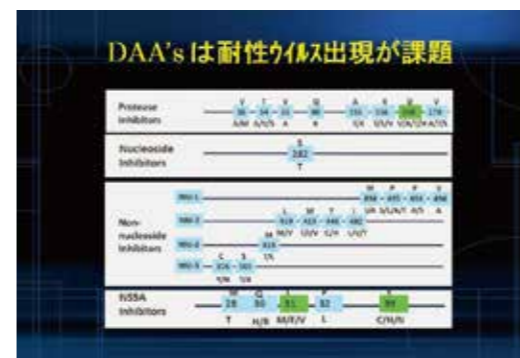
B型肝炎の新薬も次々出現してきています。B型肝炎ウイルスを内服薬で落ち着かせたあと、インターフェロン治療を導入するなど、肝癌のリスクを低減して、内服薬を終了してフォローする目途が立ちつつあります。

腹水が溜まる、あるいは意識障害(ぼーっとしたり、異常な行動をとったり=肝性脳症)という肝硬変の合併症に対しても近年新たなお薬が出現、または開発中です。

肝癌の内科治療も発展し、早期に診断し、対処すれば5年生存率が60%を超す時代に突入しています。局所治療法(ラジオ波焼灼療法やエタノール注入療法)、経カテーテル治療、肝切除(手術療法)から、放射線療法・更に肝移植まで、自施設ではできない場合は専門施設と連携して切れ目のない医療を提供していきます。

内臓脂肪が貯留するメタボリックシンドロームの肝臓での現れ、として近年NAFLD(非アルコール性脂肪性肝疾患)、NASH(非アルコール性脂肪肝炎)が激増しております。脱メタボは、患者さんと「ともに頑張る」自分自身の課題でもあり、確立した治療法のないこの分野でも患者さんとともに解決法を探っていきたいと思えます。

以上のように肝臓内科では新たな医学の進歩を取り入れつつ、ともに歩む肝臓病外来に取り組んでまいりますのでお気軽にご相談ください。



外来診療担当医一覧表

		月	火	水	木	金	土
肝臓内科	午前		小畑				第1 小畑
	午後				小畑		

医療法人 医仁会 老人保健施設 **いわやの里****回想法や生活リハを提供する「認知症専門棟」**

居室の一部を改修し、2014年9月1日に、2階を認知症専門棟35床(入所対象者:認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲa~Mの方)としてオープンいたしました。4人部屋であった居室を雪見格子の似合う和風のデイルームに設え、黒電話や足踏み式ミシン等を配して、昔懐かしい空間を演出しています。準備段階では、認知症ケア専門士を中心とした研修を行い、安心してケアを受けていただく体制を整えました。また、リハビリスタッフが中心となり、音楽療法や男農園に取り組んでまいりましたが、現在介護職も加わり、小集団の回



想法やキッチンを活用した調理にも取り組んでいます。回想法では語りを通し、過去の記憶をひもとき、若かりし頃を思い出し、調理では見事な腕前を披露されています。

生活の中でリハビリテーションは、様々な場面で自身の“力”を発揮していただいています。力を発揮する事の“連続”が、その人らしさの再構築につながります。認知症専門棟は利用者の方々が生き生きとした生活のハリを取り戻せるよう、今後も多職種連携でつとめてまいります。

社会福祉法人 青谷福祉会 **ヴィラ山科****認知症の方を対象とした「オレンジデイサービスセンター」**

ヴィラ山科オレンジデイサービスセンターは、認知症の方を対象に日常生活の支援や、介護者の介護負担の軽減を担うために、2012年8月1日に開設された定員12名の通所介護施設です。

当センターでは、利用者さんの個性を理解し、お一人おひとりの能力や所持機能を最大限に引き出すために、個別でのかかわりを大切にケアを心掛けています。

具体的には、身体機能に合わせて行う体操や施設の中庭で季節を感じていただきながらの歩行練習、お裁縫や折り

紙、おやつ作りを通じて手先を動かし心身の活性化を楽しみながらおこなえるような機能訓練を実施しています。

また、施設の周辺を散歩したり、スーパーや図書館、外食などへ積極的に出かけ、社会参加の機会を設けています。

今後も、「いつも誰かが、そばにいる」居心地のよい空間や時間を利用者さんに提供し、認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活ができるサポートを続け、地域の認知症ケアの拠点となって、地域に信頼される施設を目指します。

指定管理者 医療法人 医仁会 **精華町国民健康保険病院****透析送迎車を増やしました**

精華町国民健康保険病院では透析送迎車に軽自動車を導入しています。

これまで古い住宅地では細い道が多くあり、ご自宅前まで進入しづらいところもございましたが、これにより、よりスムーズに送迎することができるようになりました。

ご利用の際には透析スタッフまでご相談下さい。

旅行透析(臨時透析)も随時受け付けておりますので、ぜひ当センターをご検討下さい。

受付時間9:00~17:00

電話:0774-94-3251

(透析直通)

医療法人 財団 宮津康生会 **宮津武田病院****病院機能評価機構の認定病院になりました**

病院機能評価とは、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動(機能)が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者(サーベイヤー)が中立・公平な立場にたつて、所定の評価項目に沿って病院の活動状況进行评估します。評価の結果、明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで、医療の質向上が図られます。

当院では、2013年度からの取り組みとして昨年9月に病院機能

評価を受審しました。受審の結果、今年2月に認定証を日本医療機能評価機構より頂くことが出来ました。目には見えにくい病院職員一人ひとりの取り組みの成果を形にすることが出来ました。

職員にとってのやりがい、患者さんには医療の質の向上の証として、今後も研鑽を積んでいきたいと思っております。

**木津屋橋武田病院****「定期的な通院が困難」「できるだけ自宅で療養生活を送りたい」など木津屋橋武田病院では症状に応じ、訪問診療・往診を行っています**

患者さんご家族のご希望や状況等を伺った上で、症状に応じて定期的に訪問診療をさせていただきます。急変時にも臨時往診にお伺いできる体制を整えております。

また、当院の地域医療連携室が、関係医療機関・ケアマネジャー・訪問看護師と言った方々との連携も積極的に行っています。

まずはお気軽にご相談ください。(在宅療養のご相談も伺います)

木津屋橋武田病院 代表 075-343-1766 訪問診療担当

医療法人 財団 医道会 **稲荷山武田病院****3階緩和ケア病棟において、ひな祭りを開催しました**

手作りの小さなお雛様を3階病棟のホールに飾り、患者さんやご家族の方々と一緒に写真を撮ったり歌を歌ったりと、楽しいひと時を過ごすことができました。特に、病棟スタッフが点てた抹茶と和菓子の相性がぴったりで、大変好評でした。

短い時間でしたが、季節の変化と優雅な気分を感じていただけたのではと思っています。「その最後の日以前から始めるグリーフケア」の一つとして始めた季節を届ける行事を、今後

も続けていきたいと思っております。

